

# ～都市近郊の立地を活かした治水と環境の両立～

平成29年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：市民参加による木賊川遊水地の希少生物緊急保全対策

研究代表者：総合政策学部 准教授 辻 盛生

課題提案者：たきざわ環境パートナー会議 豊島正幸

研究メンバー：齊藤政宏（たきざわ環境パートナー会議）

渋谷晃太郎、島田直明、鈴木正貴（総合政策学部）、

技術キーワード：治水、河道付け替え、希少動植物、移植、生態回廊

## ▼研究の概要（背景・目標）

木賊川遊水地は盛岡市近郊に予定された治水施設（図1）であり、予定地には多くの希少動植物が残されている。これらを市民活動を通して保全し、都市近郊である立地を活かした環境教育等の活動が遊水地竣工後も継続できるよう、環境への配慮を踏まえた事業実施に向け、科学的な知見の集積を図る。

## ▼研究の内容（方法・経過）

1. 調査対象：木賊川遊水地造成予定地および木賊川、巢子川流域。
2. 調査内容：希少植物の移植および外来種の抑制方法、流域の魚類・貝類の生息状況、流域の水質調査。

## ▼研究の成果（結論・考察）

- ・ アセスメントで指定された移植対象植物種の内3種が既に失われた可能性が高い。⇒埋土種子からの再生を試行。
- ・ 特定外来生物であるオオハンゴンソウの侵入が著しい。⇒効果的な駆除方法が必要。
- ・ 分水路に下流河川との生態回廊が回復し、サケなどの遡上が確認できた（図2）ものの、分水路上流側の落差で遮られている。⇒魚道等の技術を適用。
- ・ 付け替え流路の施工による環境の劣化により、淡水二枚貝をはじめとする水生生物の消失が懸念される。⇒水質調査（図3）等で移植適地を抽出。

## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 希少植物の保全に向けた移植や保全地（ビオトープ）の創出、外来植物の効果的な駆除法の確立に向けて専門家の助言を踏まえ市民参加で活動を行う。
2. 分水路まで接続された生態回廊を、遊水地造成事業の中でさらに上流域に繋ぐ工法を模索する。
3. 極力現地で貴重動植物の保全を図ると共に、移植が必要な場合は適切な実施のために科学的な知見の集積を図る。

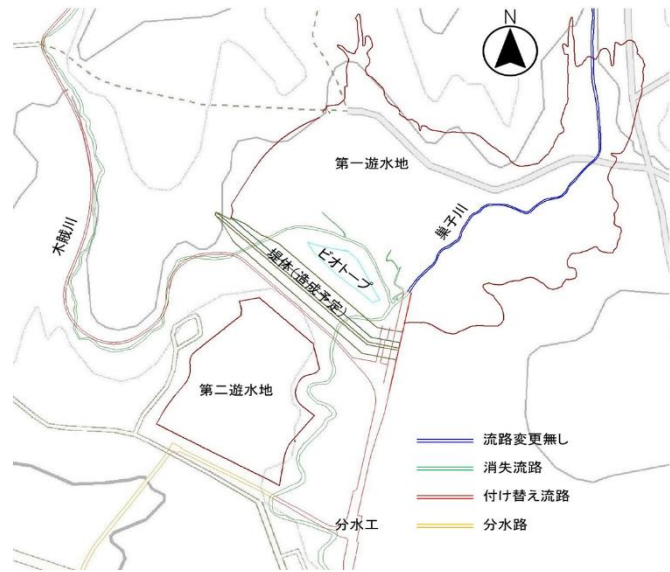


図1 遊水地の造成概要図

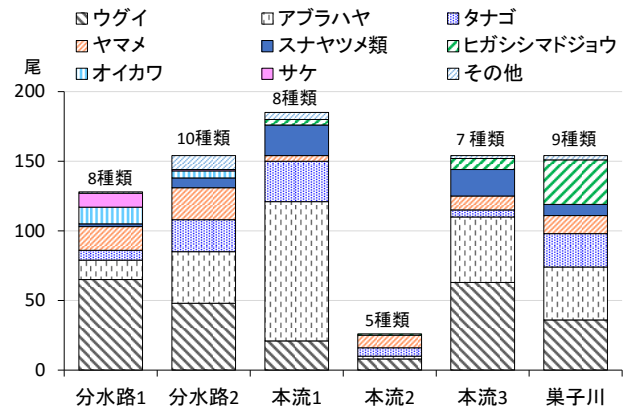


図2 魚種別通年採捕尾数および種類数

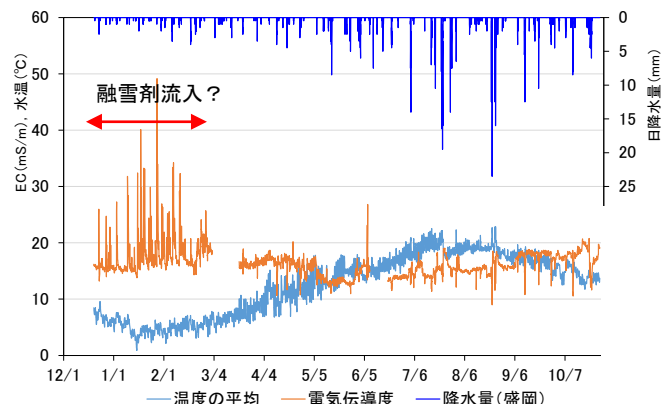


図3 巢子川下流のEC連続測定結果